

命どう宝

吉堅小学校

五年三組

比嘉

大夢

ぼくは、戦争がおこったかどうか

よく考えてしまいます。そして、毎日が平和

だったか、いいなと思います。

ぼくは、昔かひいおじいちゃんに、戦争

のことをよく聞かされました。ぼくの、ひい

おじいちゃんは、よく「命どう宝」と言っ

ていました。ぼくは、そのことを小さいころは

その言葉の意味がよくわかりませんでした。

だけど、次第に大きくなっていくつれ、その

ことが、よく分かってきました。そして、そ

の意味がわかったのは、小学三年生のころの

平和学習で知りました。その意味は、命は宝

物だということですが、だから、ぼくは、けん

かをしないです。一つの小さな命を大切に

したいです。

他にも、ひいおじいちゃんから聞いたこと

では、ひいおじいちゃんは、当時まだわか

のに、兵隊の隊長になって、指揮をとって

たそうで、みんながうたれて死んでいくのを
 見て、とても悲しかった。特に、親
 友の人が、うたれた時は、とても悲しくて、
 その夜は、声も出さずに、一人で泣いていた
 そうです。ぼくは、その話を聞いて、これま
 で生きているひいおじいちゃんが、命のこと
 を大切にしていたがわかりました。
 ほかにも、ひいおじいちゃん、日本兵が
 ほぼ全滅して、もう周りを見れば、あちこ
 ちに死体があちている時は、小さな少女が、
 お母さんの名前をよんで泣きながら歩いてい
 ても、だれも助けなかつたそうです。それはな
 ぜか、もう自分の命を守るので精一杯だ。た
 かかです。その時は、ぼくのひいおじいちゃん
 人も、自分の宝を守ることに必した。たそう
 です。だが、ぼくが、もし少女の立ち場だっ
 たか、食料もなくだれも助けてくれないのでも
 う死にたくなります。だけれど、その少女は、
 生きることもあきらめないで、いたのです。ご
 っと思いました。そして、この話を聞いて、

あふためて、ひいおじいちゃん
命のごと
き大切にしていると思いました。
だが、今
ぼくたちが当たり前前に、
ご飯を食べている
ことや、当たり前前に生きている
ことを感謝し
て、生きたいです。